

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北関東)	◎	都市型ホテル（支配人）	・宿泊、料飲部門共に、予約状況は前年より良い状況で推移している。
	◎	旅行代理店（経営者）	・春の繁忙期になるため、現在よりも良くなる。ただし、運転手不足で仕事をこなせるかが不安である。
	○	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・天候が暖かくなれば、飲料関係が出て、宴会等も増えて良くなる。
	○	コンビニ（エリア担当）	・インバウンドや値上げ等の影響も大きいですが、現在もこの先3か月も、まだ良くなっていくと考えている。
	○	コンビニ（エリア担当）	・物価高が懸念材料ではあるが、販売品目が日常に必須の食料品や飲料中心のため、値上げ後は一旦販売が低調となるがその後は持ち直すのが通常の動きである。そのため、4月1日以降の値上げでやや下振れするものの、持ち直すともっている。
	○	コンビニ（店長）	・3月は月末の3日間くらいでかなり寒さが戻り、客の出足が大変鈍い。余り良い結果は出ないものの、3か月後は通常に戻るとみている。
	○	コンビニ（店長）	・これから気温が上がってくると、出掛ける機会も増えて販売量も増えてくる。
	○	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・新年度を迎えてから、送迎と歓迎を合わせた歓送迎会をする企業が多いようで、宴会の増加に期待している。
	○	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・天候も暖かくなり、人の動きが活発になるとみている。
	○	一般レストラン（経営者）	・行楽シーズンになるため、物価高でも人とお金は動く。
	○	都市型ホテル（経営者）	・外食産業は季節的な理由だが、歓送迎会と総会シーズンの到来で、2月の落ち込んだ状況から今後数か月間は上昇傾向となる。ただし、新型コロナウイルス感染症発生前の数字との比較では、日によって50～70%という状況である。
	○	旅行代理店（所長）	・景気の先行きは見えないものの、インバウンドは前年と比較してもかなり良くなると期待できる。ただし、全体的な引上げとなるには、国内需要の盛り上がり次第である。
	○	タクシー（経営者）	・全体的に人の動きが良くなったので、この先も良くなるとみている。
	○	設計事務所（所長）	・新年度がスタートして少しは前向きの動きがあると予想している。
	□	商店街（代表者）	・米、野菜、日用雑貨等の高騰で、最近は節約志向が顕著に表れている。
	□	一般小売店〔精肉〕（経営者）	・天候が暖かくなり、青果、米等の価格は下がってくると考えるが、政府の備蓄米放出も、価格は余り変わらない状況のため、景気の浮上はない。買い控えの多さは変わらない。
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	・国内観光客の購入数も、新型コロナウイルス感染症発生前の水準に戻りつつあるが、安い物を数多く購入する傾向が一段と強まっている。4月から大阪・関西万博が始まるため、海外観光客が増える予想している。ただし、国内観光客は、大阪・関西万博に流れるため、国内観光客の落ち込み分を海外観光客が埋める形と予想して、周辺の景気は変わらない。
	□	百貨店（営業担当）	・依然として、食料品を中心とした日常生活に直結する物価高の影響が顕著である。客単価は上昇しているものの、それ以上に買上客数が減少しており、この傾向はしばらく継続する。
□	百貨店（営業担当）	・最近の値上げや原材料価格の高騰が、食料品以外の繊維製品や石油製品にも反映されてきており、納品分の値上げ等の通達が各取引先から来ている。これらを受けても今後の購買動向は変わらないか少し悪くなる程度と考えている。	
□	百貨店（店長）	・不確定要素が多すぎて判断できない。株価や円相場は直近で大きく動く可能性もあり、現在の不安心理に経済指標が連動すると大きく悪化する可能性もある。	
□	乗用車販売店（経営者）	・現時点では、地域の自動車メーカーの生産台数は横ばいである。また、大規模小売店は、売上は分からないが、休日になると道路渋滞を起こすほどである。	

□	住関連専門店（仕入担当）	・インバウンドによる需要増以外にプラス要因がない。インバウンド需要の影響がない地域は、今後も厳しい消費傾向が続く。
□	その他専門店（総務担当）	・先の物件がない状況のため、変わらない。
□	その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	・給食事業は食材費が高止まりし、人件費も上昇が続き、主要経費が収支を圧迫し続けている。受託先から取引条件の見直しに理解が得られ、受け入れてもらえてはいるが、どうしても後追いの改定となるため、厳しい状況は今後も続く。
□	都市型ホテル（スタッフ）	・原材料費や人件費の高騰で、最高益とはならなかったものの、売上は過去最高となっている。特に宿泊は、稼働率に加えて客室平均単価も前年実績を超え、予算達成している。今まではそれほどでもなかったインバウンドも増えてきており、地方にも流れがきつつあることが実感できる。
□	旅行代理店（従業員）	・海外情勢や円安の現状が変わらないと厳しい。国内旅行需要だけでは大きく変わらない。
□	旅行代理店（営業担当）	・今年のゴールデンウィークも日並びが良いため、業界全体では動きがあるとみているが、現場としては景気が上向き要素がない。
□	通信会社（社員）	・現時点では変わらないと考える。今後は、客の声を大切にし、顧客が満足するような対応力、提案力等を追求することで、顧客離れを防止していきたい。
□	通信会社（営業担当）	・物価高対策などがない限り、改善は望めない。
□	テーマパーク（職員）	・ガソリンや諸物価の上昇により、余暇に対する消費は厳しくなっている。
□	ゴルフ練習場（経営者）	・依然として、消費者物価は上昇しているものの、賃上げが追い付かない。
▲	スーパー（総務担当）	・4月以降の値上げにより、悪くなるとみている。
▲	スーパー（商品部担当）	・競合店の新規出店が予定されており、現状でも良くないところ、更に悪くなると予想している。
▲	衣料品専門店（販売担当）	・コロナ禍での外出自粛が身にしみついてしまったという雰囲気のところ、この長期の物価高が、相当生活に影響している。当店の扱う外出着等は、し好品に近い一番後回しになる。そこまでのゆとりが、多分生活の中にはない。そういう意味でこれからどんどん輪をかけて悪くなっていく。
▲	乗用車販売店（従業員）	・受注と受注残は、減少してきている。
▲	自動車備品販売店（経営者）	・身の回りのムードは余り良くない。車に乗って出掛けるとか、積極的に動くというイメージはなく、緊縮的である。そのため、車への消費や売上に結び付かない流れができていく。ガソリン価格等が安くなるといった手だてをしてもらえると助かる。
▲	観光型ホテル（経営者）	・やや悪くなるとみているが、政局次第である。
▲	通信会社（総務担当）	・利益が物価上昇に全く追い付いていないため、やや悪くなる。
▲	通信会社（局長）	・このまま物価高騰が続き、それに比例した賃上げが伴わない限り、買い控えが進み、景気は悪くなる印象が強まる。
▲	ゴルフ場（従業員）	・物価上昇の影響で、仕入れ値の上昇が続いているものの、客単価の上昇は見込めない。
▲	住宅販売会社（経営者）	・従来の営業スタイルを見直していかないと、売上は維持できない。
▲	その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	・年度明けすぐの依頼が少ないこともあるが、職人等の人手が足りず、せっかくの依頼も断るケースが出ている。
×	一般小売店〔家電〕（経営者）	・生活が苦しく、家庭で使う物にお金を使えなくなっている現実がある。ましてや電化製品等は、壊れないと買換えという選択にはならないため、当業界は苦しい状態にある。
×	家電量販店（店員）	・期待できる商材群は見当たらないものの、予報どおり猛暑となればエアコンに期待ができる。
×	乗用車販売店（経営者）	・落ち着いた国内政権や米国政権の影響により悪くなる。
×	住関連専門店（店長）	・今の政権運営では、景気は悪くなる一方ではないか。
×	一般レストラン（経営者）	・物価高が続き、かなり影響を受けている。この状況はしばらく続く。

	×	タクシー運転手	・4月は歓迎会等で利用客が多くなる時期だが、地方では余り期待できない。	
	×	通信会社（経営者）	・企業の倒産件数からしても、いかに景気が悪いかはうかがえる。仕入コスト高に人件費高騰、商品に価格転嫁ができるかできないかで騒いでいるが、転嫁したところで売れなければ意味はない。物価高騰で消費者の買い控えがますます顕著になっている今、インフレを抑えることを優先しないと本当にスタグフレーションになってしまう。	
企業 動向 関連 (北関東)	◎	—	—	
	○	窯業・土石製品製造業（経営者）	・3か月先の景気が良くなるかは、正直分からない。ただし、希望も含めて、これより悪くなるとは考えにくいいため、少しは良くなる。	
	○	金融業（営業担当）	・金利のある世界で、全体的には各種の物事が改善すると見込まれる。	
	□	食料品製造業（経営者）	・物価上昇が所得の増加を上回り、消費が落ち込む状況は変わらない。	
	□	化学工業（管理担当）	・3か月先までは売上が確定しており、変わらない。	
	□	窯業・土石製品製造業（総務担当）	・取引状況にも変化がなく、現状のまま推移するとみている。	
	□	金属製品製造業（経営者）	・取引先でも人手不足による業務遅延が発生しているため、変わらない。	
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・景気が良くなったと実感できる仕事量に戻るのには、まだ先ではないかと考える。	
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・米国の関税の行方にもよるが、先行きの明るさがみえてこない。	
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・受注が段々と増えてきており、残業しないとやり切れない状況になっている部署もある。ここ最近では珍しいことである。	
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・中国向けの製品は、今と変わらず伸びないとみている。	
	□	輸送用機械器具製造業（経営者）	・このところまずまずの状況だったが、2～3か月先のことは全く分からない。多分、変わらないかやや悪くなる。	
	□	その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・物価高の状況等も、依然として続いている。	
	□	輸送業（営業担当）	・季節替わりで園芸関連、レジャー、キャンプ用品等の物量は前年並みを確保予定である。現状、燃料価格の高騰でドライバー不足の手配車両高もあり、利益は薄くなりそうである。	
	□	経営コンサルタント	・米国政権の関税政策と世界的影響がどの程度あるのか分からず、国内生産の動向も不透明であるため、地域の中小企業の生産活動活発化が見込めない。	
	□	司法書士	・何となく落ち着いているようなので、今後も変わらない。	
	□	社会保険労務士	・地方の中小企業は賃上げ余力がないので、消費は盛り上がりせず、現状と変わらない。	
		▲	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・物価上昇が続いており、国内では自動車が余り売れていない。輸出に関しても米国の関税がどうなるのか不安があるため、先行きに不透明感がある。
		▲	建設業（総務担当）	・補正予算の効果も薄く、公共工事の業務量が足りていない。この先も不安しかない。
		▲	不動産業（管理担当）	・経費の増加傾向はこのまま続くとみている。従業員の給料を上げないと人材確保に影響があるため、取引先に更なる受注価格の引上げを依頼しないと財源が確保できない。ただし、交渉は厳しい状況が続く見込みである。
	×	*	*	
雇用 関連 (北関東)	◎	—	—	
	○	人材派遣会社（経営者）	・小売、販売等での募集傾向は短時間のアルバイト、パートが多く見受けられる。どちらかという、賃金は一進一退である。物価は米価も高い傾向で、工夫しながらの食材購入となっているが、連休等を控えて、小売、販売、製造の一部でゴールデンウィークに向けた商戦も見受けられる。公共事業関係は、受注が伸びていく傾向にあるものの、厳しいと考えている。	
	○	人材派遣会社（管理担当）	・天候が暖かくなり、麺類の製造派遣の増員予定があるため、やや良くなる。	

□	人材派遣会社（社員）	・求職者に対し、より高い賃金を払える企業と払えない企業の採用格差が拡大している。対応できない企業の採用は苦戦が続くとみている。
□	人材派遣会社（社員）	・米国政権の関税の件などもあって株価が下がっており、先行きの大きな動きはやや心配である。当社だけでなく他社も含めて、深刻な人手不足が続いており、仕事があったとしても対応できるのかというところもある。市内への外国人観光客の入込は変わらず多いが、人手不足である。
□	職業安定所（職員）	・新規求人の動向は、医療福祉については増加傾向で推移している。建設業は減少傾向で、製造業、卸売・小売業、サービス業では増減を繰り返している。
▲	学校〔専門学校〕（副校長）	・世界情勢や日本の政局を考えた場合、不安材料が多い。そのため、購買意欲が低下し、貯蓄などが増えるとみている。
×	*	*